

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実  
 施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造  
 基本事業 自主的市民文化 芸術活動の育成・支援

事業名 セラミックアートセンター企画展開催事業

[0477]

部名	教育部	事業開始年度	-年度	実施計画事業認定	非対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	-年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市民</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>多くの市民(来館者)に利用してもらうことで、よりれんがとやきものまち「江別」のイメージを広く共有し、市民の文化意識の高揚を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>平成21年度は、北海道窯業界および日本陶芸界に大きく寄与した、市ゆかりの釉薬研究の第一人者小森忍にスポットをあて、実行委員会を組織し、財団法人地域創造の助成を受ける中で、全国巡回展「小森忍 日本陶芸の幕開け」を開催する。                      ・普及関連事業として、作品解説やロビーイベント等を同時開催する。                      ・市内関係機関や道内外の美術館・博物館などにポスターやチラシ等を掲示する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市民	人	123,537	123,054	122,568	122,564
対象指標2						
活動指標1	企画展開催数	回	1	1	1	3
活動指標2						
成果指標1	企画展入場者数	人	1,348	1,591	2,070	3,000
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	2,492	3,270	8,759	3,710
正職員人件費(B)		千円	4,187	4,179	5,394	4,164
総事業費(A)+ (B)		千円	6,679	7,449	14,153	7,874

費用内訳	
21年度	報償費 577千円、旅費 425千円、需用費 858千円、委託料 899千円、負担金 補助及び交付金 6,000千円

# 事業を取り巻く環境変化

	やきもの文化振興策の基軸		
事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	

## 21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・  
根拠は？

市民への陶芸文化の啓蒙・普及を目指し、よりよい鑑賞の機会の充実を図るために公共的機関がおこなうことが望ましい。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

陶芸文化を中心に広く本市における芸術文化振興の基軸となる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・  
根拠は？

やきものまち江別のイメージに貢献し、作り手の刺激にも大いになっている。しかし、入場者数が思ったように伸びていない実態があり、もう少し市民を巻き込んだ事業展開が必要。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

企画や運営のあり方を工夫することで可能。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・  
根拠は？

単費開催の企画は、市内および道内工芸家を主体としたテーマ設定を行い、工芸家の成果と陶芸を主体とした工芸文化の普及に努める。  
企画運営を従前のセンター主催事業のみから、市民開放の機会を増やす。それにより市民の文化活動支援となるとともに、企画経費の削減にもつながると思われる。